

## 関東信越国税局長賞

# 税への意識を高めるために

新潟県立長岡高等学校

二年 大谷 琴梨

今年の十月にまた消費税を十パーセントまで増税するというニュースを見て、私はまた増税か、と驚きました。母もよく昔に比べて色々な税金が高くなったと話しています。私たちはつい、何も知らずに「何でまた増税するの」や「嫌だ」と言ってしまうんです。しかし、ふり返ると私は多くの場面で税金に支えられてきました。

私は五才の時、中越沖地震に遭い、家はかなりの被害を受けました。数日間は近くの避難所で生活を余儀なくされました。その時、自衛隊の方が食べ物を持ってきて渡してくれました。数日後にはお風呂を用意してくださったのを覚えています。当時は何も分からずに、支援を受けていたけれど、今考えるとそれも税金のおかげで受けられた支援です。もしも自衛隊がいなければ、復興にももっと時間がかかったと思います。また、安心して病院に通えるのも税金のおかげです。私の祖父は数年前、病気で入院し、手術を受けました。現在も持病で病院に通っています。それらを安心してできるのは税金による社会保障のおかげです。

このように税金はとても便利であります。問題もあります。その中の一つは財政赤字が続いているということです。事実、現在は高齢化が進み、社会保障費の歳出は増加しています。このままではより公債に頼らねばならなくなり、どんどん財政は悪化します。私はこれ以上の悪化を防ぐためにも身近なことができる必要があると考えます。例えばごみの削減です。ごみの処理にかかる二兆円超えの金額はすべて税金からまかなわれています。私たちが少しづつごみを減らせば、処理する量は減り必要な金額も減らせるのではないのでしょうか。もう一つは、緊急時の救急車の要請について考えることです。平成二十八年は、警察・消防費に五兆円以上かかっています。しかし消防庁によると、平成二十八年の搬送者の半数弱が入院不要の軽症でした。本当に救急車の出動が必要だったのは半分だけなのです。この不適切な使用を減らすために、最近は電話相談窓口の全国展開が推進されています。そのような窓口があることが広まり私たちがもしも救急車要請をするか悩む場面で相談をできれば救急車が出動せずに済むかもしれません。このようにして軽症者の搬送が減れば出動にかかる費用を減らすことができると思います。

税金についての問題は国の問題だから関係ないと私たちはつい考えてしまいます。でも税金は個人個人に関わる大切な問題です。身近でできることをやり、税に対する意識を高めることが重要だと思います。